

宮北千織 日本画展

—心—

【会期】 9月19日(木)~9月24日(火)
 【会場】 船橋東武 6階イベントプラザ
 会場内ブース
 船橋市本町7-1-1
 ☎047(425)2211

みやきた・ちおり

1967年東京都生まれ。97年東京藝術大学大学院博士後期課程(日本画)満期退学。98年有芽の会法務大臣賞。2000年日本美術院春季展奨励賞(同02,03年)。01年日本美術院春季展春季展賞、再興院展奨励賞(同03年)。02年再興院展日本美術院賞大観賞・足立美術館賞。04年再興院展日本美術院賞大観賞・天心記念茨城賞。07年日本美術院同人推挙。11年京福寺天井画制作。14年再興院展文部科学大臣賞。15年再興院展内閣総理大臣賞、日光二荒山神社中宮祠神楽殿天井画制作。17年再興院展足立美術館賞、日光二荒山神社千支給馬制作。現在日本美術院同人、東京藝術大学准教授、文星芸術大学特任教授。



「姉妹」20号F



「祈り」10号F



「かりね」15号F



「十二の秋」8号F

「作品を通して、人の『想い』や『心』が描ければと思って制作してまいりました。最近では、願いや祈りの姿を描くことが多くなりました。今回のテーマを「心」としましたのは、精神の動きであるところや、物事の根本の芯という意味を持つこの言葉が好きで、大切にしているからです。日本画の勉強を始めた頃からずっと、目指したい人物画というのがあって、それに向かって制作してきました」(展覧会あいさつ文より)

日本美術院同人の宮北千織が描く女性には高い品格がある。自立した一人の人間として意志を持つことや正直に生きること、自身を律しながら行動を積み重ねてきた、崇高な強さを湛えている。

宮北が同人に推挙されたのは40歳で、孔子によれば「不惑」の年である。現在は「天命を知り」、大切にしているという「心」をテーマに、改めて自身の内面と向き合っている。今展では新作を含む約20点を発表する。

(編集部)